

地域内交通の運行に関する協約取り交わし および拠点間交通「稲瀬線」開通

地域内交通の運行に関する協約書取り交わし式は3月29日、本庁舎で行われました。

市は、昨年6月にあじさい都市きたかみ公共交通網形成計画を策定し、口内地区で運行されている自家用有償運送と、稲瀬地区を含む5地区で運行されている乗り合いタクシーを「地域内交通」として位置づけました。同協約は、地域内交通が運行されている6地区(口内・稲瀬・相去・和賀・岩崎・藤根地区)、運行事業者4社の3者が、これ

からの地域内交通について共に協力していくことを約したものです。

同協約では、地域内交通が地域における生活の足として持続可能なものとなることを目指しています。市は関係機関との調整や補助などの支援、運行事業者は安全な運行の確保、地域は公共交通の利用促進や運行の支援を行います。

また、稲瀬地区では、市内と奥州市江刺を結んでいた、バス路線・岩黒線の廃止に伴い、稲瀬地区と北上駅間を結ぶ拠点間交通「稲瀬線」が開通し、2日、稲瀬地区交流センターで開通式が行われました。

同地区自治協議会の高橋清久会長が「今後、地域の声を取り入れながら運行内容を見直していく。週3回の運行をいづれ週4〜5回と増やしていくるよう、利用促進していく」と意気込みを語りました。同地区交流センターからの第1便出発時刻の午前7時40分には、式典の出席者や地域住民ら約40人が、「稲瀬線」の出発を祝いました。



協約を交わした自治協議会、運行事業者と高橋敏彦市長



関係者や地域住民らが出発する車両を手を振って見送りました

地域おこし協力隊活動報告会

地域おこし協力隊活動報告会は13日、本庁舎で行われました。

同報告会は、地域おこし協力隊員の活動を共有し、市長ほか参加者との連携を深めていくことを目的に行っており、今回で2回目の開催となりました。

現在、市内で活動している6人の協力隊員が順に発表を行い、観光まちづくりを目標とした魅力発信の活動や交流人口を増やすための取り組み、

ふるさと納税で寄附額が初の10億円超え

ふるさと納税(ふるさと北上応援寄附)の29年度の寄附額が20年度の開始以来、初めて10億円を超えました。

件数は、5万3065件。都道府県別では、東京都からの寄附額が約30パーセントを占めました。

全国から集まった寄附金は、小中学校などの安全な教育環境づくり、子育てや高齢者に

やさしい環境づくりなどに役立てられます。

寄附実績(金額)

年度	寄附件数	寄附額
25	58件	3,332千円
26	12,537件	140,157千円
27	38,320件	570,478千円
28	47,031件	723,410千円
29	53,065件	1,020,998千円

なりました。

なお、市は、新たなプロジェクトで隊員を募集しています。詳細は、市のホームページをご覧ください。都市プロモーション課(☎72-8308)へお問い合わせください。



活動状況について報告する長岡さん

「ちやちやつと！パパつと！簡単朝食レシピコンテスト」表彰式

「ちやちやつと！パパつと！簡単朝食レシピコンテスト」表彰式は3月27日、本庁舎で行われました。

同コンテストは、第2次北上市食育推進計画の事業の一つとして初めて開催されました。市で行った調査で朝食を食べていない人が多かったことから、忙しい朝でも簡単な調理でしつかり栄養が取れるレシピを募集。小学生から80代までの42人から応募がありました。

最優秀賞は、単品部門ではさまざまな具材を乗せ、火をほぼ使わず作れる「納豆丼」を



最優秀賞・優秀賞を受賞した皆さん



簡単バランス部門最優秀賞：栄養満点よせ豆腐in土鍋



単品部門最優秀賞：納豆丼

応募した楽しいお食事会グループ(太田代セイ子代表)が受賞しました。また、簡単バランス部門では、火の通りの早い土鍋を使い、豆腐と野菜をたっぷり入れた「栄養満点よせ豆腐in土鍋」を応募した谷藤悠平さん(飯豊中3年)が受賞しました。

優秀賞は、単品部門では前田南さん(若宮町)、高橋藍さん(上江釣子)、簡単バランス部門では小原礼子さん(村崎野)、佐藤楓香さん(飯豊中2年)の計4人が受賞しました。また、奨励賞として各部門10人が受賞しました。

最優秀賞のレシピは、市のホームページで公開しています。

市内の避難者状況(みなし仮設住宅入居者) (3月31日現在)

区市町村	山田町	大槌町	釜石市	大船渡市	陸前高田市	宮城県	福島県	合計
世帯	7(-1)	18(-2)	11(0)	5(0)	7(0)	2(0)	1(0)	51(-3)
人数	11(-3)	30(-2)	22(-1)	8(0)	9(0)	3(-1)	2(0)	85(-7)

※(-)は前月比。市で把握している人数です。

※広域避難者の住宅再建が進んできていることや、みなし仮設入居者や転入被災者などの変動も小さくなっていることから、4半期ごとの掲載としています。

協働まちづくり拠点



皆さんは北上市まちづくり協働推進条例をご存知でしょうか。この条例は、市民やNPO、事業者、行政などの公

共の担い手が互いに対等な立場で資源を出し合い、協力してまちづくりを行う、協働によるまちづくりのためのものである。北上市は平成3年の市町村合併以来、地域コミュニティを重視した政策を展開し、地域による地域計画策定やまちづくり活動などが活発に展開されている。しかし、協働やNPOについて、まだまだ理解されていないと感じることがある。新年度を迎え、あじさい都市へのまちづくりを本格的に進めるためにも、改めて取り上げてみた。

NPOとは非営利活動組織のことであり、市芸術文化協会や市国際交流協会のような市民活動団体、自治協議会などの地域づくり組織も含まれる。当市では北上駅前の生涯学習センターを中心に多くのNPOが活動を展開し、協働のまちづくりを推進している。これらの団体には市が無償で場所の提供を行い、NPOはその他の活動資源を協力者から得て活動を継続している。まさに協働である。

また、事業者も協働の重要な担い手であることを忘れてはならない。条例において事業者とは企業などの営利組織のことであり、事業者との協働もまちづくりの上で重要である。政策推進のミッションを共有した場合はNPOと同様に協定などを結び、互いに資源を出し合い、協働により政策を推進することとしている。事業者との協働は近年、地域づくり組織でも活発に行われるようになっており、毎年、地域貢献活動企業表彰を実施しているところである。

改めて、北上市生涯学習センターは当市の協働まちづくり拠点である。ぜひ皆さんにも協働まちづくりのプレイヤーとして、ご活用いただければ幸いである。